



2023. 7. 6発行

学校保健委員会だより

今年度第1回目の学校保健委員会を、6月28日(水)に開催しました。

今回のテーマは、「あっくんは食べられない～食べられない理由を知って欲しい～」でした。

東京造形大学美術学科を卒業され、現在放課後等デイサービス事業所で勤務されているあっくんこと菊間章紘さんと、東京都東村山市に設立されたNPO法人すくすくはあとの代表でもあるあっくんのお母さん、土崎幸恵さんを講師としてお迎えし、90分に渡って偏食についてのお話をうかがいました。

現在23歳のあっくんが赤ちゃんだった頃のお話から始まりました。「食の困難」がその当時からあり、母乳で蕁麻疹が出てしまうときがあるのに母乳しか受け付けず、哺乳瓶でミルクを飲むことがなかったそうです。離乳食もすぐに口からべーっと吐いてしまうのでなかなか母乳から離れられず、他人に預けられない子でした。

保育園でも食事を食べなかったこと、小学校では給食を残すことが許されず、最後まで教室に残されては「ひと口食べなさい」と言われる毎日で拷問のようだったこと、中学校では反抗期も重なり、白いご飯とお肉しか食べなかったこと、高校からは少しずつ食べられるものが増えてきたものの、現在でも食に困難さがあることは変わらないこと、など当事者であるあっくんとあっくんを支えてきたお母さんの貴重なお話をうかがうことが出来ました。

食の困難を抱える子どもに必要なのは指導ではなく、支援。「わかってくれる人がいる」ということがとても大きいそうです。五感(見る・聞く・かぐ・味わう・触れる)と五管(目・耳・鼻・舌・口)が自分と違う人種もいることを理解してください、というお話が心に残りました。





あっくんへの質問コーナー

～時間の許す限りたくさんの質問に答えてくれました～

Q. 食べられるものが増えるきっかけはなんですか？

A. あっくんより

友だちの影響が大きい。ファミリーレストランに行って、食べたことがない物を食べよう！というゲームをしたことがあって、食べてみて食べられるものもあった。好きな女の子が頭がよかったので、仲良くなるための共通点を作るために頭がよくなりたいたいと思い、頭がよくなる食べ物を食べたこともあった。

A. お母さんより

高校生の頃、お弁当を忘れた日があってクラスみんなが少しずつお弁当を分けてくれたことがあった。苦手なものもあったが、みんなに悪いと思って食べたら食べられた。同じく高校生の頃、初めてお友だちの家に泊まりに行った時、大嫌いな納豆が出てきた。家なら絶対に食べないがひと口食べたということを知ってびっくりした。

Q. 魚が苦手な子はどうしたら良い？

A. あっくんより

骨がある魚は今でも苦手。箸の使い方もあまり得意ではないので骨をはずすのは難しいパズルのように感じる。得意な人に骨をとってもらったり、骨までやわらかくて食べられる缶詰を食べるようにしたりしている。

今回の講演会も含めお話の一部をYouTubeで聴くことができます。「適育適生プロジェクト」で検索してください！



適育適生プロジェクト

私たち、一般社団法人適育適生プロジェクトは、発達障がいのある当事者とその家族及び支援者等が豊かな人生を送ることができるように、多くの人に障がいを知ってもらい、ともに配慮と支援を考えてもらうための啓発活動を行う団体です。

現代の社会で発達障がいと呼ばれる脳の特性が「障がい」ではなくなる未来を目指して活動をしています。